

怯（おび）えの街

12月に入ったある寒い日。彼はクライアントの会社がある目黒に出かけた。

打ち合わせを済ませた駅への道。ホッとした彼は「コーヒーを飲みたい」と思った。間口の狭い小さな喫茶店に入った。コーヒーカップを手に今しがた渡された資料に目を落とす。

後ろの方で声。「あともう一人来ますが、とりあえずコーヒーを」「あとして、どの位あと？」と老店主の声。

「えっ？あつ…2～30分くらい…」

「で、話はどれ位時間かかるんですか？」「えっ？…」

「うちは長い時間の人はお断りしてるんですよ」

…手元の時計を見る。15時15分、閉店時間を気にする時刻ではない。

とげとげしい声をうしろに彼は席を立ち店を出た。駅に向かう路を歩いた。若い頃に読んだペストに怯える街の群像を描いた小説を思い出していた。師走のうそ寒い風が彼の背中に吹いていた。(高洲在住：I.N)

【編集後記】

ウチナンチュとして一年を過ごして



実家のある沖縄に帰郷して一年滞在した。世界遺産の首里城が大火災で焼失した一週間後だった。焼失した翌日は友人から悲しみのメールがあった。私は帰郷の際、時折空港からの帰路の途中で首里城に寄り、朱塗りの城を眺め、琉球王国の繁栄を誇りに想っていたのに、今回はその気力も失せて寄らずに帰路についた。けれども地元の新聞の記事、TVの情報では、再建に向けて企業・団体・地域・個人等が復興支援の募金活動をしていた。私はさすが琉球王国500年の歴史の首里城が県民の心の拠りどころであり、不撓不屈の精神を強く感じた。私が勤めていた「うるまチャレンジド」（障害者と呼ばず啓蒙する米語）も復興支援として瓦シーサーなど作品を製作、販売し、その収益を寄付した。(琉球新聞に掲載された)

火災の痛み、コロナ禍のなかでも辺野古米軍新基地建設反対の行動は規模は縮小しつつも続いていた。私は一度も参加できなかったが、辺野古新基地地盤軟弱に対して「沖縄防衛局のここがおかしいという理由を意見書としてデニー知事あてに届けてください」と署名をお願いしたり、地元の風光明媚な島嶼島から辺野古の埋め立てに土砂が搬入されているので、幹線道路でのスタンディングに参加した。行動の先頭に立っているのがオール沖縄会議・島ぐるみ会議です。新基地建設反対名護共同センターニュースも、スマホ、インターネットでご覧になって拡散していただきたいと思います。ウチナンチュ（沖縄の人）は決してあきらめません。(舞浜在住：T.I)

さあ、総選挙の年

政権交代で「命と暮らしを守る政治」の実現を！

日本共産党・千葉5区予定候補 浅野 ふみ子

皆さん、2021年をどのように迎えられましたか。

私は、「もっと多くの方に希望を届けたい」と思い続けた年を送り、政権交代で命と暮らしを守る政治の実現を決意する新しい年を迎えました。

コロナ禍のもとで苦しむ労働者やシングルマザー、学生、医療・介護従事者、保育士や教員などの悲鳴のような叫びを伺い、議員や党支部とともに事態の改善を求めて地方自治体や国へ何度も要望してきました。すぐではなくてもいつかは必ず実現できると思いつつ、しかし「要望は承った」と相手方は言うだけでまともな検討もしない態度に悔しさでいっぱいでした。しかし、一人一律10万円の定額給付金の支給や雇用調整金申請期限の延長、PCR検査の対象拡大など、一つ一つの制度の改善や前向きな変化が起こっているのも事実です。

医療機関への支援も「充分」だと言い放ち、後期高齢者(75歳以上)の年収200万円以上の医療費負担を1割から2割に引き上げると公言する。これほどまでに国民の命に関心を払わない政権があったのでしょうか。政治の役割は公助を拡大することなのに、自助ばかりを増やす菅政権を終わらせるしかない。「社会保障を充実する新しい政府を打ち立てよう」と街頭で訴えるとチラシやしんぶん赤旗の見本紙が飛ぶように受け取られます。怒りが広がり、「頑張って」とのかけ声やガッツポーズをする方もいらっしゃいます。この熱い期待に応えなくては、との思いが強まります。

さあ、総選挙の年です。必ず政権交代を実現すること、そのためにも野党共闘の要の日本共産党の躍進を勝ち取ること—私たちが自ら決めたこの目標をやり遂げることは、日本社会からも求められています。我が党の自力をつけて、勝利を引き寄せるため、全力を尽くす決意です。



浦安駅前で見せ麻里市議と

～ハイキングのお誘い～

2月21日(日) ひめはるの里—花と、犬と、森と、湖と—

集合：舞浜駅9:00→JR外房線茂原までの乗車券を購入

交通費：1,166円×2+バス代

入園料：大人600円・子ども300円

ホリデーパスの会(真鍋) ☎047-352-7735

Mail: kmanabe@jcom.home.ne.jp



田村智子参議院議員来る

2021 新春のつとめ



◇主催：日本共産党浦安市後援会・日本共産党浦安市委員会

◇日時：2月7日(日)午後2時～4時

◇会場：ウエーブ101大ホール

◆参加される方はマスク着用、手指消毒のご協力をよろしくお願いいたします。ご体調のすぐれない方はご遠慮下さいませよう、お願いいたします。※参加費：無料

～つれづれなるままに～

◇ほしいもの コロナばりの 生命力

◆保証なき 自粛だけでは 民滅ぶ

◇試される 科学の力と 人間力

(高洲在住：小幡梨杏)



～コロナの不安 どうのりこえる？～

先日、買い物の帰り、女性から声をかけられました。「私とても年を取っているんです。人が嫌いです。もうすぐ死ぬんです」…見た目はそんなに高齢でもなく、ステキな感じの方でした。



全く知らない方でしたので、びっくりしましたが、「今日は曇り空ですが、木々の葉がきれいに見えていいですね。これから紅葉もきれいになりますね」とお答えしてみました。その方は最初の思いつめたような表情から穏やかな感じになられて、立ち去って行かれました。ちょっとした言葉を交わすことで、今のコロナでの閉塞感や孤独感が少しは和らげられたのでは？

コロナ禍で、様変わりした生活が続きます。感染の恐怖や不安で気分が沈みがちに。

日々の生活を変えていく。心地いいと感じることをしてみる。好きなものを見ると心が落ち着きます。

毎日1回呼吸を整える。ゆっくり深い呼吸をする。体にも心にもいいことです。

仲間や友人たちと、会えなくても電話やメール、手紙でつながりあうことが本当に大切です。また趣味や勉強で自分を高めることに時間を使うことも、心を健やかに保てるのでは？ (今川在住：T.A)